

札幌市中高一貫教育校設置基本構想（案） に対するご意見の概要と札幌市の考え方

札幌市中高一貫教育校設置基本構想（案）について平成23年1月25日から2月28日までの約1ヶ月間、市民の皆様からの意見募集を実施いたしました。たくさんのご意見をいただき、誠にありがとうございました。

いただいたご意見を参考に、構想案を一部修正するとともに、今後の詳細な検討に当たって参考にさせていただきます。

また、本資料にて、いただいた全てのご意見の概要と、それに対する札幌市の考え方をご報告いたします。

なお、皆様からのご意見は、できるだけ趣旨に沿って取りまとめ、要約しておりますことをご了承願います。

今後とも札幌市の教育施策に対してご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【目次】

- I 意見募集実施の概要
- II 基本構想案の修正点
- III 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

平成23年（2011年）3月

札幌市教育委員会

I 意見募集実施の概要

1 実施期間

平成 23 年（2011 年）1 月 25 日（火）～平成 23 年（2011 年）2 月 28 日（月）

2 意見募集方法

持参、郵送、FAX、電子メール【ホームページからの送信含む】

※ 平成 23 年 2 月 20 日に札幌市民ホールで『札幌市中高一貫教育校設置基本構想案 市民説明会』を開催し、その際にも意見募集を実施。

3 資料配布・閲覧場所

- 札幌市教育委員会学校教育推進課企画担当
- 市役所本庁舎 市政刊行物コーナー（2 階）
- 各区役所 市民部総務企画課広聴係
- 各まちづくりセンター
- 教育委員会ホームページ

4 意見数等

(1) 提出者数

199 名（団体含む）

(2) 提出方法別内訳

	持参	郵送	FAX	電子メール	市民説明会	合計
提出手法内訳	1	6	5	16	171	199
割合	0.5%	3.0%	2.5%	8.1%	85.9%	100.0%

(3) 提出者居住区内訳

	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	市外	不明	合計
提出者居住区	19名	24名	69名	6名	4名	14名	4名	16名	16名	9名	4名	14名	199名
割合	9.5%	12.1%	34.7%	3.0%	2.0%	7.0%	2.0%	8.1%	8.1%	4.5%	2.0%	7.0%	100.0%

(4) 意見数

452 件（同様の意見等を取りまとめ 186 件の意見に集約）

【意見の内訳】

章	項目	件数
第1章	中高一貫教育校の設置について	99件
第2章	育てたい生徒像と改編対象校について	28件
	第1節 育てたい生徒像	11件
	第3節 改編対象校選定の考え方	17件
第3章	中高一貫教育校の教育内容等	86件
	第1節 中高一貫教育の特徴を生かした教育内容	25件
	第2節 発達段階に応じた指導区分の設定及び単位制の導入	4件
	第3節 他の中学校・高校との教育成果の共有	1件
	第4節 魅力ある学校づくりに向けた取組	8件
	その他 学力・部活動など	48件
第4章	中高一貫教育校設置の枠組	135件
	第1節 設置形態	2件
	第2節 学校規模	5件
	第3節 通学区域	2件
	第4節 開校時期	2件
	第5節 入学者の決定方法	69件
	第6節 中高一貫教育校設置に伴う移行期間	10件
	その他 制服・通学・給食・費用・学科など	45件
第5章	中高一貫教育校の施設整備の考え方	2件
第6章	課題・留意点への対応等	35件
	第1節 課題・留意点への対応	18件
	第2節 評価と検証	17件
その他	説明会など	67件
合計		452件

II 基本構想案の修正点

(1) 入学者決定方法（基本構想案 P19【第4章】）

基本構想案

5 入学者の決定方法

前期課程（中学校段階）の入学者の決定に当たっては、学力検査を行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選などを適切に組み合わせて実施することとし、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意します。

なお、入学者の決定方法については、今後詳細に検討し、開校前年度までに公表します。



修正理由

- 入学者決定方法について基本構想案に記載されている手法の全てを行うことを想定しているとの誤解を与えないように修正することとした。
- 入学者の決定に当たっての日程等については、関係機関と協議していくことを明記することとした。

修正後

5 入学者の決定方法

前期課程（中学校段階）の入学者の決定に当たっては、学力検査を行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選など**複数の方法の中から選択のうえ、適切に組み合わせて実施することとし、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意します。**

なお、入学者の決定方法については、今後詳細に検討し、開校前年度までに公表します。

また、入試日程については、私学関係団体と話し合いを行うなど、関係機関と調整のうえ、決定することを考えています。

(2) 課題・留意点への対応等（基本構想案 P24【第6章】）

基本構想案

2 評価と検証 (以下略)



修正理由

- 再度説明会を開催してほしい等の意見を踏まえ、適切に情報提供を行っていくこと、そして児童・保護者向けの学校説明会の開催についても実施の方向で考える旨を明記することとした。

修正後

2 今後の進め方

今後、市民意見等を踏まえ、カリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど情報提供を行っていきます。

また、開校前には、入学を希望する児童・保護者向けの学校説明会の開催を考えています。

3 評価と検証

(以下略)

III 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

※ 「札幌市の考え方」内に記載している（P●参照）は、「基本構想」の参照ページを指しています。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
■ I 中高一貫教育校の設置について（99件）		
1	基本構想案に期待する・応援する。 必ず開校してほしい。 成果に期待する。 魅力的な構想だと思う。 素敵な学校になりそうで楽しみ。 など (52件)	平成23年度から、開校にむけた具体的な検討を進め、市民の皆様の期待に応えられるような学校を目指していきます。
2	中高一貫教育に興味がある。 進路選択のひとつとして検討したい。 子どもの入学を希望したい。 など (25件)	
3	基本構想案に概ね賛同する (2件)	
4	現状ではまだまだあまいと思うが、中高一貫には基本的には反対ではない	
5	6ヵ年一貫教育への期待が一般市民から一定数あることについては認められるものの、私学はともかく、全額を税金で負担する公立教育機関が、ごく限られた一部の生徒へその機会を提供することは教育の機会均等に反することにならないか。	中高一貫教育校は平成11年の学校教育法等の改正により国として制度化したものあり、中高一貫教育の特徴を生かした特色ある学習環境で、より個性や力を伸ばすことができる子どもたちに対して新たな選択肢を提供することで、中等教育の多様化を推進するとともに、学びの場の更なる充実を目指すものです。 また、中高一貫教育校のみならず、市内の中学校、高校と様々な成果を共有し、互いに高めあう取組を推進することで、校種を越えた学校間の連携を一層促進できると考えており、札幌市全体の中等教育の一層の充実を図ることができるものと考えています。(P3参照)
6	市内には6ヵ年一貫教育を実践している私立中学校・高等学校が7校（江別市、小樽市を含めると10校）あり、それぞれが建学理念に基づき、優れた教育実践を行っている。その入学定員は845名（江別市、北広島市、小樽市を含めると1170名）あるが、2010年度の定員充足率は76.7%（江別市、北広島市、小樽市を含めると75.6%）しかない。 市立中高一貫校が募集を開始すれば、その影響は必至であり、私学経営に過大な影響を及ぼす。100年以上の歴史をもつ学校もあり、長年多くの優秀な人材が社会へ巣立ち、札幌市民の期待に応えてきた。市立校の開校により、数校が閉校の危機にさらされるようなことになれば、市民の選択肢が減り、結果的に札幌市の教育力を低下させることになる。 市立同様札幌市民に中高一貫教育を提供する私立と授業料に不公平があってはならないと考える。札幌市民の子どもが私立中高一貫校に通う生徒に対しては、授業料の無償化を求め、私立中高一貫校への札幌市からの負担軽減措置（補助）を強く願います。 など (4件)	平成19年に市立学校に通学している生徒・保護者を対象に実施したアンケートにおいて約58%の保護者が市立の中高一貫教育校への入学に積極的な回答をしています(P4参照)。こうしたことから、中高一貫教育に対する潜在的な需要は大きいものと認識しており、市立の中高一貫教育校は、このような需要を新たに掘り起こすものと考えています。 制度上、義務教育である中学校段階はすべての生徒に公立学校で学ぶ機会を保障しており、その中で私学独自の特色ある教育を受けることを主体的に選択している方々に対してその授業料の公費負担は難しいものと考えています。同様の考えから今まで以上の補助を行うことについても難しいものと考えています。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
7	<p>有力進学校が多くある北海道に結局公立エリート進学校になる学校を多額の税金を投じて学校を新設する必要性・メリット等については、更に検討が必要ではないか。</p>	<p>市立の中高一貫教育校は、中高一貫教育の特徴を生かした特色ある学習環境を新たな選択肢として提供することなどを目的としており（P3 参照）、いわゆるエリート進学校を目指しているわけではありません。</p> <p>中高一貫教育校の設置に当たっては校舎の全面改築を予定しておりますが、新たに学校を増設するのではなく、すでに校舎改築の時期が迫っている開成高校を改編して設置することから（P7 参照）、新たに学校を新設する場合のような負担は生じないものと考えております。</p>
8	<p>中高における新たな複線化教育を進めることは、子どもたちを早期からの「差別」、「選別」することにつながる。</p> <p>学力検査による選抜を行わないにせよ「選ばれた生徒」だけの特別の学校になり、エリート校化するのを避けられず、このことにより受験競争の低年齢化を招くことになる。</p> <p>また東区を中心とする中学生にとって、開成高校は他に無い特色ある学校であり、自我を持ち将来を真剣に考える彼らから、そういった高校の受験の機会を奪うことになる。</p> <p>市教委が最優先にするべきことは、公立の中高一貫教育校の設置よりも、札幌市に住む全ての子どもが少しでも豊かな教育を受けることができるよう教育条件整備を進めることだと思う。</p> <p>など（3件）</p>	<p>中高一貫教育校は平成 11 年に学校教育法等の改正により国として制度化したものであります。また、中高一貫教育の特徴を生かした特色ある学習環境を新たな選択肢として提供することなどを目的としており（P3 参照）、「差別」、「選別」につながるものではないと認識しております。</p> <p>入学者決定方法については、学力検査は行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選など複数の方法の中から選択のうえ、適切に組み合わせて実施するなど、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意する必要があると考えています（P22 参照）。</p> <p>加えて、平成 21 年度から道立高校は石狩管内一学区、市立高校は市内一学区となっており、中学校卒業時点の公立高校への選択肢は保障できるものと考えています。</p> <p>札幌市教育委員会としては、中高一貫教育校の設置も含めて、札幌市に住む全ての子どもたちが豊かな教育を受けることができるよう教育条件を整えていきたいと考えています。</p>
9	<p>全体を通して根本的に反対します。まず私自身対象予定高等学校の卒業者であることからどうしても早めの英才教育へのアレルギーがある。</p> <p>また、コズモサイエンス科の定員増と社会科学系の学科の設置、定員減にはなるが、普通科の維持で十分特色ある学校づくりが可能だと考える。</p> <p>更に私自身小学校時代は決してよい成績ではなかったこと、有名私立の中高一貫校の父兄の社会的地位や所得が上位に限られていることを考慮しますといくらペーパーテストに偏重しない入学試験をすとしても、必ず、学習塾では適性検査等の受検対策を行い、市教委のねらいは外れることになり、中学校になってから伸びる人が入学不可能となるのは火を見るより明らかではないでしょうか。学級定員減を図る等中高一貫校化しなくても、生徒への学習指導は十分行えると思う。</p>	<p>市立の中高一貫教育校は、中高一貫教育の特徴を生かした特色ある学習環境を新たな選択肢として提供することなどを目的としており（P3 参照）、いわゆる英才教育を行うことは考えていません。</p> <p>また、教育内容は、コズモサイエンス科の取組をベースに、6年間継続的・系統的に取組むことで、さらに充実した学びになるものと考えており、中高一貫教育校で取組むことがより適切と考えています（P7 参照）。</p> <p>なお、入学者決定方法については、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意する必要があると考えています（P22 参照）。</p>

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
10	<p>中高一貫のことよりも保育所の整備等が先に必要である。なぜ、子どもの人口が減って学級削減が進んでいる中で中高一貫を設置するのか、札幌市教育委員会の自らの生き残り策にしか見えない。再考を願う。</p>	<p>市立の中高一貫教育校は、新たに学校を設置するのではなく、少子化の進展を考慮したうえで、既存の市立高校を改編することといたしました（P3 参照）。</p> <p>また、少子化の進展に関わらず、子どもたちの個性や能力を伸ばすための教育改革を行ってきたところであり、これからも進めていく必要があると認識しています。</p>
11	<p>札幌市として何を目標しているのかわからない。</p>	<p>近年の科学技術の高度化や情報化、グローバル化の進展など社会が急激に変化する中で子どもたちは、自ら課題を発見し解決する力や自らの将来を切り拓く力などを身に付けるとともに、豊かな人間性などをはぐくむことが重要だと考えています（P5 参照）。</p>
12	<p>人生の基盤をはぐくむという説明があったが、具体的に何なのかかわからない。中高一貫にする必要性をあまり感じない。</p> <p style="text-align: right;">（2件）</p>	<p>6年間の連続した学びなど中高一貫教育の特徴を生かした特色ある学習環境でこうした力をより伸ばしていくことのできる子どもたちもいると想定されることから、市立の中高一貫教育校を新たな選択肢として提供することとしたものです（P3 参照）。</p>
13	<p>効率教育の延長線上にしかないので未来が見えない。たぶん進学校になるのだろうが、実績が出るまで不安は消えないだろう。</p>	<p>平成 23 年度から具体的なカリキュラムなどの詳細な検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど更に詳しい情報を提供してまいりたいと考えています。（P24 参照）</p>
14	<p>札幌地区においては、札幌市周辺を含めて 10 校の私立中高一貫校があり、それぞれ建学の精神とそれを引き継ぎ、多くの困難の中で不断の努力・創意工夫により築き上げてきた確固たる教育方針に基づき、様々な特色ある中高一貫教育を実践し、市民に幅広く様々な選択肢を提供するなど、札幌市民のニーズ・希望に応える教育活動を展開している。</p> <p>このように、札幌市の教育において、私立学校は重要な役割を果たしており、市立中高一貫教育校設置に関する検討に当たって、当然これら私立中高一貫校の実情等とその設置により及ぼす影響等について重要な考慮要素となるものである。</p> <p>ついでには、札幌市教育委員会において、どのように私立中学高等学校を認識し、前記私学の実情等と私立中高一貫校への影響等について検討・考慮をされたのか具体的に示してほしい。</p>	<p>札幌市教育委員会といたしましても、札幌市の教育にとって私立学校は非常に重要な役割を果たしていただいていると認識しており、それぞれの教育理念やお互いの役割を尊重し、今後とも様々な機会において協力を深めていくことが必要と考えています。</p> <p>私立の中高一貫教育校への影響等につきましては、平成 19 年に市立学校に通学している生徒・保護者を対象に実施したアンケートにおいて約 58%の保護者が市立の中高一貫教育校への入学に積極的な回答をしています（P4 参照）。こうしたことから、中高一貫教育に対する潜在的な需要は大きいものと認識しており、市立の中高一貫教育校は、このような需要を新たに掘り起こすものと考えています。</p> <p>加えて、新たに学校を設置するのではなく、少子化の進展を考慮したうえで、既存の市立高校を改編することとし（P3 参照）、改編対象校の高校部分の定員の減少を図る予定であります。</p>

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
15	検討に当たって、「札幌市中高一貫教育校検討協議会」が開催されておりますが、同協議会には、多くの札幌市立学校関係者がメンバーとして入る一方、私立中高関係者は入っておらず、またこれまで全く私学側への協議がなされなかった状況がある。何故、私立中高関係者の意見を聞いたり、協議の場を設けないまま、このたびの基本構想案の結論を出したのか、大きな疑問があることから、その理由を明確に示してほしい。	「札幌市中高一貫教育校検討協議会」につきましては、札幌市で中高一貫教育校の設置可否を含めた方針を決定するために、設置するとした場合の教育の方向性や教育活動等に係る課題・留意点の整理を目的に設置したものであることから、市立の小中高の教員や学識経験者、PTA、公募市民で議論をしていただきました。また、この間の検討につきましては、平成 20 年 2 月に「札幌市における中高一貫教育のこれまでの検討について」を公表するとともに、平成 20 年 5 月から始まった「札幌市中高一貫教育校設置検討協議会」については、適宜議事録も公表し、平成 21 年 5 月の答申の公表に併せ意見募集を行うなど関係者も含め、広く市民の皆様の見解をお聞きしきたところです。(P2 参照)
16	入学させたい・比較的入学させたいというアンケート結果は 60%弱であったが、その割合はどの程度基本構想に盛り込まれたのか。	アンケート結果を踏まえ、市立の中高一貫教育校に相当程度のニーズがあるものと認識し、設置の判断材料の 1 つといたしました。
17	義務教育の位置付けはどうなるのか。	中等教育学校の場合は、1年から3年までの前期課程が義務教育となります。
<p style="text-align: center;">■ II 育てたい生徒像と改編対象校について（28件）</p>		
<p style="text-align: center;">II-1 育てたい生徒像（11件）</p>		
18	特色ある教育プログラム、札幌らしい国際人の育成が実現されることに期待いたします。学力偏重でないところが良い。	基本構想案の「育てたい生徒像」で示させていただいたように、市立の中高一貫教育校では、札幌で学んだというアイデンティティを持ちながら、将来の札幌や日本を支え国際社会で活躍することのできる、知・徳・体のバランスのとれた「自立した札幌人」を6年間の連続した学びを生かして、育てていきたいと考えています。(P5 参照)
19	ゆとり教育によって弱体化した若年層、日本の中で競争力を失った札幌、世界の中で競争力を失った日本において、中高一貫教育において有効な時間活用が出来、優秀な人材を育てられるのであれば、どんどん進めるべきだと思います。	
20	文武両道の真のエリートを育てていく学校を望んでいるのだが、せめて国際的に活躍できる人材を育ててほしい。	
21	開成は良い高校と聞いているので、卒業後にも地域社会に貢献できる子どもたちをしっかりと見守り育ててほしい。	
22	個性を生かす学校なのか。	
23	個々の児童の個性を伸ばし、個性を活かして社会で活躍できるような人材育成に期待する。 (2件)	基本構想案の「はぐくみたい心」で示させていただいたように、地域の大人たちとの交流をはじめとする多様な体験を通して、札幌に愛着を持つ心や地域に貢献する気持ち、魅力ある個性をはぐくみたいと考えています。(P6 参照)
24	6年間で自らの将来の社会的自立や生き方を考え、自らの将来を切り拓く力を育ててほしい。	基本構想案の「育てたい力」で示させていただいたように、各教科の学習や総合的な学習の時間、特別活動等を通して、自らの将来を切り拓く力をじっくりと育てていきたいと考えております。(P6 参照)

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
25	自立した札幌人を育成すると謳っているが、どのような人材を育成したいのかわからない。	自ら課題を発見し解決する力や自らの将来を切り拓く力などを身に付けることで、変化の激しい現代社会を力強く生きていくための力を育てるとともに、豊かな人間性や魅力ある個性、札幌に愛着を持つ心、地域に貢献する気持ち、そして国際社会で活躍するための国際的な視野をはぐくむことで、将来の札幌や日本を支え、国際社会で活躍することのできる人材を育成したいと考えています。(P5～6 参照)
26	札幌のことを学び、愛着を持ち、地域に貢献する気持ちを育てることは良いことだが、もっと広い世界や地方へも飛び出していけるような教育をしてほしい。大学を卒業しても札幌から離れたくない、または結局札幌に戻ってくるという人が多すぎる。「札幌人」という言葉は使わなくても良いのではないか。	「自立した札幌人」という言葉には、札幌の豊かな自然や社会・文化の中で学び、生活した者が札幌をかけがえのないふるさととして、そこに立脚し、アイデンティティを確立して行ってほしいという願いや、自らの夢や希望に向かって挑戦し、国際社会で活躍することのできる自立した社会人として、自らを高め、広げて行ってほしいという願いが込められているものであり、札幌に留めようという意味で使っている言葉ではありません。
27	全国にある先例をよく点検された上で、札幌の風土に合い、世界に眼を向けることのできる生徒の育成に努力されたい。	先進事例なども参考にしながら、将来の札幌を支え、国際社会で活躍できる人材の育成に努めてまいりたいと考えています。
Ⅱ－3 改編対象校選定の考え方（17件）		
◆ 改編対象校の選定（9件）		
28	東区には公立高校が4校しかなく、開成高校がなくなると現在の入試で開成レベルの生徒は地域の学校に行けなくなるため、別に新設したほうがよい。 (4件)	中等教育学校には高校段階から入学することができなくなることから、決定から開校まで相当程度の年数を設けることや、開校から3年間は高校段階からの入学枠を設けるなど、十分な周知期間を確保し、地域の方々のご理解をいただく努力をしてまいります (P19～20 参照)。
29	理念は理解するが、東区における進学する高校の選択肢が狭い状況で高校を減らすこと、また、中学生の定員を増やし、高校の定員を減らすことは学生数の推移と逆行していることなどから構想実現には無理がある。 ○代替案1 併設型とする。この場合、中卒生の高校進学 の選択肢を確保できるだけでなく、開成高校の校風や学力をある程度維持できる。 ○代替案2 中学校を改編対象校として一体型を設置する。子どもの進学の選択肢を増やし、中高間の学生数に対しても逆行しない。また、人格形成上より重要な中学期において、初年度、2年度の入学生にすぐうえの先輩がいないという決定的な欠陥を補う事ができ、さらに高校段階部分を時間に余裕をもって、じっくりと検討してから開校できる。	一方、平成21年度から通学区域が変更され、札幌市立高校については、全市一学区、道立高校については、石狩管内一学区となっており、既存の市立高校を改編して中高一貫教育校を設置したとしても公立高校に入学を希望する生徒の選択肢は保障できるものと認識しております。また、設置形態については、生徒全員が中高一貫教育の特色ある教育を受けることができ、コズモサイエンス科の取組をベースに中高一貫教育の特徴を最大限生かした学校づくりを行うことのできる中等教育学校での設置が望ましいと判断しました (P7 参照)。 加えて、中学校を改編対象校とする考え方については、札幌市においては、中学校は高校と異なり原則学校選択を認めていないことから、既存の中学校を改編することはその地域の通学条件等に大きな影響が出るため適切ではないと考えています。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
30	既存中学の閉校という状況を伺わせる様な説明がありましたが、地域通学圏を踏まえると問題ないとはいかないと考える。 中学校が集中している地域になると思うのですが、その際の地域住民へのあらかじめの説明も必要と考える。	市立の中高一貫教育校は、開成高校を改編対象校として設置するものであり、地域の中学校を閉校にすることはありません (P3 参照)。
31	開成高校よりも大通高校の方が通いやすいと思う。	改編対象校の選定に当たって、教育内容を最も重視し、それに加えて、アクセスの観点や施設整備の観点などを総合的に勘案して決定しております。(P7 参照)
32	東区元町だと乗継が必要で通学に不便。 (2件)	
◆ 開成高校の伝統 (7件)		
33	開成の名前を残してほしい。	開成高校は約50年の伝統を持ち、卒業生はこれまでに2万人におよび、様々な分野において活躍しております。教育委員会としても、伝統ある素晴らしい学校であると認識しており、「開成」の名称や校歌を含め、開成高校の伝統をどのように継承していくのか検討しつつ、新しい学校づくりを進めていくことを考えています。 (P7 参照)
34	教育においても「不易流行」が重要であり、中高一貫教育校においても約半世紀の伝統を踏まえ、校名・校訓・校歌の万古不易の土台がしっかりしていれば、その上に立って21世紀の社会が要請する「流行」の事象を考え、企画し、実行していく上での不安はない。	
35	服装の自由化に象徴される自由な校風は単なる特徴ではなく、学校のアイデンティティであると考えているので、札幌市が設置する中高一貫校が「開成」であり続けるために、現在の開成高校のこうしたアイデンティティを継承し、この基本構想案に示されているさまざまな新機軸と融合されることを期待する。	
36	「校名と校歌の継承を含め」とありましたが、「開成」の名を残すような形で新校名を考えてほしい。 また「山あり空あり大地あり」で始まる谷川俊太郎作詞の校歌についても出来れば残す方向で考えてほしい。新たに校歌を作るにしても、これまでのものを全く廃止するのではなく、例えば「旧校歌」や「後期課程」として残してほしい。	
37	開成高校は文武両道をモットーとする学校であり、1学年4学級程度の規模ではこういった伝統を維持することはできない。	
38	現在の開成高校の取組みを発展(英語や実体験重視)させることを念頭に置いて検討してほしい。	開成高校コズモサイエンス科の取組は6年間を通した学びの連続性などの中高一貫教育の特徴と融合させることで、更に特色ある教育を実施することが可能であると考えております。(P7、P9~11 参照)
39	コズモサイエンス科の発展的改編と言っているが、全く別のものになってしまうのではないかと。	
◆ その他 (1件)		
40	開成高校を閉校にしない理由を教えてください。	法令上は高校から中等教育学校に改編されるため、開成高校は閉校になりますが、「開成」の名称や校歌を含め、開成高校の伝統をどのように継承していくのか検討しつつ、新しい学校づくりを進めていくことを考えています。(P7 参照)

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
■ III 中高一貫教育校の教育内容等（86件）		
III-1 中高一貫教育の特徴を生かした教育内容（25件）		
◆ コズモサイエンス科の取組の発展（5件）		
41	コズモサイエンス科はとても魅力的。	基本構想案に示させていただいたとおり、コズモサイエンス科の教育と中高一貫教育の特徴を融合させた特色ある教育内容を実施していきたいと考えています。（P7、P9～11 参照）
42	コズモサイエンス科の良いところをそのままに、中高一貫で更に独自のカリキュラムにするところが良い。	
43	英語・数学教育を充実させてほしい。	
44	入学後は他校よりも英語について強化した授業を行うのか。	
45	開成の魅力はコズモサイエンス科にあると思うので、普通科の人数を減らしてコズモサイエンス科の人数を増やしてほしい。	
◆ 進路探究学習（5件）		
46	生徒の特性に応じた幅広い進路指導の充実を図ることを期待する。	市立の中高一貫教育校では、自らの将来の社会的自立や生き方を主体的に考え、自らの将来を切り拓く力を育てるために、地域の人材などと連携したインターンシップをはじめとする体験的活動を含め、6年間を見通した系統的、計画的な進路探究学習プログラムを構築することにより、学ぶことの意義や大切さを理解させ学ぶ意欲の向上を図っていききたいと考えています。（P12、17 参照）
47	進路探究学習における現場での研修を各学年で体験するなどのカリキュラムに賛同する。	
48	中学校の職業体験については、実際に職業を体験することをしてしていると聞いている。大変貴重な体験となるので、検討してみてもどうか。	
49	キャリア教育を是非教育カリキュラムに盛り込んでほしい。	
50	単位制を導入するだけで、子どもたちが自らの希望等を踏まえた適切な進路選択ができるわけではない。その前提として、生徒自身が希望を見付けていくプロセスをどう教育でフォローしていくのかについて検討してほしい。	
◆ はぐくみたい心（11件）		
51	中高の教員が6年間継続して見守ることにより、生徒一人ひとりの長所や個性をより伸ばすことができるところが良い。	基本構想案に示させていただいたとおり、中高の区別なく一体的な学校運営を行い、中高の教員が一体となって6年間継続して見守り、生徒一人ひとりの個性や長所を伸ばしていきたいと考えています。（P14 参照）
52	中学校、高校の場合、受験中心になってしまい先生と生徒の関係も小学校に比べ希薄に感じている。受験勉強のみでなく人間関係、精神面においても十分配慮してほしい。	市立の中高一貫教育校では、幅広い異年齢集団による活動や学び合いを通して豊かな人間性や学習意欲の向上を図るとともに、中高の教員が一体となって6年間継続して見守り育てていくことを考えています。（P13～14 参照）

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
53	<p>中高一貫した教育によって知識の向上はもとより最大の魅力は人間力のUPだと思う。これからの時代、社会国際力を持つ為には人間力、自立型の人間の成長が重要だと思います。人生にとって人間形成で大切な時期である。多くの子どもたちはこの時期に何になりたいかまだ決まってないのが普通であり、この時にどんな教育を受けるか、どんな体験をするか、どんな人と接するのが大切なポイントだと思う。</p> <p>人間力の形成、成長が親である私たちと教育の使命だと思う。大学に行くための手段ではなく学修の場にしてほしい。</p>	<p>近年の科学技術の高度化や情報化、グローバル化の進展など社会が急激に変化する中で、子どもたちは、自ら課題を見付け解決する力や自らの将来を切り拓く力などを身に付けるとともに、豊かな人間性や地域に貢献する気持ちなどをはぐくむことが重要であると考えています。このため、市立の中高一貫教育校では、幅広い異年齢集団による活動や学び合いやゲストティーチャーを招いての授業や職場体験、ボランティア活動など様々な体験的な活動などの教育活動を行っていききたいと考えています。(P9~14、17 参照)</p>
54	<p>人格形成に力を入れてほしい。</p>	
55	<p>勉強ができるのも必要だが、社会に適応できる教育をしてほしい。(2件)</p>	
56	<p>6年間を通した学びの連続性の特色がわかりにくい。</p>	<p>平成 23 年度から具体的なカリキュラムなどの詳細な検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど更に詳しい情報を提供してまいりたいと考えています。(P24 参照)</p>
57	<p>1年生から6年生まで一緒に互いに高めあい、異学年との刺激も沢山あり、よいと思う。現在の開成高校も非常に特色があるので、楽しみ。</p>	<p>基本構想案にも示させていただいたとおり、幅広い異年齢集団による学び合いは中高一貫教育の大きな特徴の1つであり (P13 参照)、他都市の先進事例でも大きな効果を挙げていると聞いております。札幌市で設置する中高一貫教育校でも効果的に活かしていきたいと考えています。</p>
58	<p>同じ学校に年齢の幅がある生徒が集うことで先輩が後輩に自分たちが学んだことをアウトプットでき、先生からの授業とはまた違う親近感と共感のある授業が可能になると思う。異年齢集団による学び合いによる学習によって心も体も大きく成長していくと期待する。(2件)</p>	
59	<p>社会人として必要な礼節なども学ばせてほしい。</p>	<p>日常の学校での指導や幅広い異年齢集団による活動はもちろんのこと、職場体験やボランティア活動等の場で、社会で活躍している方々や地域の方々と触れ合う機会などをつくる中で社会人として必要な資質や態度も身に付くものと考えています。</p>
◆ その他 (4件)		
60	<p>コミュニケーションに関する授業なども行ってほしい。</p>	<p>今後、具体的なカリキュラムを検討する中で、課題探究的な学習の中で、発信型の英語力の活用も含めて、プレゼンテーションやディスカッション、ディベートなど表現力を高める取組を検討していきたいと考えています。</p>
61	<p>PDCA サイクルをまわすような教育をしてほしい。</p>	<p>課題探究的な学習においては、習得(基礎的・基本的な知識等の習得)、活用(自ら思考する力、表現する力の育成)、探究(自ら問いを立てて解決する力の育成)の流れを繰り返し行うことで、学ぶ意欲を高めたり自ら学び自ら考える力を高めたいと考えています。(P11 参照)</p>

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
62	縦のつながり重視のために、部活と生徒会と行事を中高一体としてほしい。	幅広い異年齢集団による活動は中高一貫教育のひとつの大きな特徴であり、それを生かすために、学校行事などの特別活動や部活動においては6学年一緒の活動を基本としていきたいと考えていますが、詳細については、各活動の特性や中学校段階のリーダーシップの育成の方法などの観点から多様な展開を行なうなど今後検討を進めていきます。(P13, 23 参照)
63	他校を参考にするのも良いが、札幌の独自性を出すべきだ。	札幌市教育委員会では、札幌らしい学校教育を推進しており、札幌市が設置する中高一貫教育校においても同様に取組んでいきます。(P12 参照)
Ⅲ－２ 発達段階に応じた指導区分の設定及び単位制の導入（４件）		
64	基本的な教養や知識などの基盤もしっかり育成してほしい。	基礎・基本の習得は重要であり、具体的なカリキュラムの検討に当たっては、特に基礎期に当たる1・2年生段階においては少人数指導等も含めて検討したいと考えています。(P15 参照)
65	単位制はとても良いと思う。	単位制には生徒の多様な興味関心に応じて生徒自らが科目を選択し学ぶことができるという特徴があります。市立の中高一貫教育校には、小学校卒業段階から生徒が入学するため、在学中に多様な進路希望や興味関心の広がりが生じることが予想されることから、単位制を導入することによって、それらに適切に対応することを考えています。 市立では旭丘高校と大通高校が単位制を導入していますが、いずれも学年制の高校と比較して、生徒の多様な進路希望等に対応した幅広い科目選択が可能になっています。(P15 参照)
66	単位制にする理由や現在の成果等を示すべき。 (2件)	
Ⅲ－３ 他の中学校・高校との教育成果の共有（１件）		
67	中高一貫の取組を札幌全体の中学・高校の橋渡しとしてたくさんのお子ごもたちのはぐくみにつなげることは非常に大切だと思う。	基本構想案に示させていただいたように、札幌市立の中高一貫教育校が中学校と高校の橋渡しを行うことで、札幌市の中等教育が一層充実できるよう取り組んでいきたいと考えています。(P16 参照)
Ⅲ－４ 魅力ある学校づくりに向けた取組（８件）		
68	中だるみの3・4年の間に受験が無いことを生かし、語学留学等の制度を盛り込んでほしい。	3・4年生の時期は充実期と位置付けており、市立中高一貫教育校にとって、最も特色を打ち出すことのできる重要な時期と考えています(P15 参照)。異文化交流の機会を充実させるなど、生徒が興味関心を持ってじっくりと取組むことのできる教育内容の展開を検討していきたいと考えています(P17 参照)。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
69	子どもの視野を広げることを目的に民間からの指導者登用も是非検討してほしい。	地域や大学、企業などと連携し、ゲストティーチャーを招いての授業や札幌にある歴史的遺産や文化的施設などを活用した学習活動などの実施の検討を考えています。(P17 参照)
70	大学の教授、企業の研究者を講師にした授業をしてほしい。	
71	私は先祖の世代より地域に育ってきた者だが、学校運営やカリキュラムの策定について地元と連携していけるのではないかと。地域歴史の教育等などについて連携を模索してはどうか。	
72	地域の人たちと継続的に関わりを持つなどの取組を行うなど、様々な経験、体験ができる学校になってほしい。	
73	中学・高校で担当教師が分かれているのであれば、本当に6年間通して同じように見ていけるのか疑問。職員会議等は一緒に行われるのか。	
74	中高教員の連携という言葉が多く使われ、教員に対しての中高一貫という枠組みができていないと感じる。教員免許の関係かもしれないが、学校運営体制についてもっと考えてほしい。	中学校でも高校でもない6年間一貫した教育を提供する新たな学校を創造するために、中学校出身教員と高校出身教員の区別なく、相互に授業を持つことや職員会議を合同にするなど、一体的な学校運営を行っていくことを考えています。(P17 参照)
75	何かに偏らない(例えば受験)教育を行うというが、連携している大学に国家試験を取ることを目的とするなどの偏った教育を行っている学校も含まれるように思う。連携先も同じ理念を持つ学校とすべきではないのか。	大学等との連携の目的は、大学と理念を共有して同じスタンスで教育を進めていくということではなく、生徒の興味・関心に応じて、最先端の学問研究などの「ほんもの」に触れる機会を提供するなどして、生徒の知的好奇心を刺激し学習意欲を高めることにあります。そうした観点から現在の市立高校同様、幅広く大学等と連携していきたいと考えています。(P17 参照)
Ⅲ-5 その他(48件)		
◆ 学力関係(27件)		
76	学力だけでは通用しないといっても学力は無くしてはならないものである。現在の開成高校より学力が下がらないようにしてほしい。 (10件)	確かな学力の育成は学校の大きな使命の1つであり、中高一貫教育校の特色ある教育を実践する中で、十分な取組を行っていきたくと考えています。また、大学に合格することのみを目的とした教育を行うことは考えていませんが、中高一貫教育校の特色ある教育を受けた生徒が、自らの将来や生き方を主体的に考えた結果として、大学を含め様々な進路選択をすることは、他の中学校・高校の場合と同様、問題ないと考えております。
77	大学受験だけを目的にした学習は望ましくないが、現実的には一定程度の受験対応は必要。 (4件)	
78	大学進学実績も魅力のひとつになるので、そのフォローも大切。	
79	札幌市ではじめての市立中高一貫教育校なので、中身を育てることも大切だが、難関大学の合格実績をつける学力向上を目指す特設クラスを作ってほしい。	
80	受験の先取りは良いこと。	

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
81	学力検査はしないということだが、入学後に授業についていけないなどといったことがおこってしまうのではないか。(6件)	法令の定めにより学力検査は行わないことになっていることや心身発達の著しい6年間という長い期間を1つの学校で過ごすことから、特に高校段階において生徒間の学力差が広がる可能性があると考えます。
82	学力差がでたときに学力の違う層をどのように指導していくのか。	
83	ある程度学力レベルが揃っていないと様々な対応が必要になるのではないか。多様な学力の子どもに対してどのように高等学校の教育を行っていくのか心配が残る。	こういった対応についても、今後の具体的なカリキュラム等との検討と併せて、他都市の先進事例なども踏まえながら検討を進めていきたいと考えています。
84	高校入試が無いことで、学力が落ちる場合は私立で見られている。厳しい進級テストを考えてほしい。	
85	「いたれりつくせり」の学校にはならないようにしてほしい。ある程度の競争は、今後、生きてく為に必要不可欠。	基本構想案にあるとおり、生徒の自立もひとつのテーマと考えており、敢えて生徒に試行錯誤の場を提供するなどの取組を通して、主体的に行動できる人材を育てたいと考えています。(P5参照)
◆ 部活関係 (12件)		
86	基本構想案の中では教育内容が主になっているが、部活動等についても知りたい。既存の中学・高校ではあくまでも中・高に分かれての大会が主なので、中高一貫ではどのような振り分けで活動するのか。(9件)	改編対象校である開成高校は部活動も盛んであり、そういった伝統も引き継ぐとともに、中高一貫教育の特徴を生かして、基本的には中高合同の活動を行っていきたくと考えており、今後他都市の先進事例等を参考に更に詳細な検討を進めたいと考えています。(P13参照)
87	今後の検討に当たっては部活動の取組なども盛り込んでほしい。市立中学校では最近部活動の指導者不足で廃部になることが多いようなので、部活動も積極的に取り組んでほしい。(3件)	
◆ その他 (9件)		
88	詳しいカリキュラムが知りたい。(5件)	平成23年度から具体的なカリキュラムなどについて更に詳細な検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど詳しい情報を提供してまいりたいと考えています。(P24参照)
89	文・理は高1くらいで分けたほうがよい。	
90	検定もとれる環境だとうれしい。	
91	部活等を6年間続けられない場合「継続する力」が無いという評価にならないか。	6年間を通した学びの連続性という中高一貫教育校の特徴は、部活動や生徒会活動など特定の活動を6年間継続することを求める意図から示しているものではありません。
92	公立にありがちな、だらしなく変化していくことが無いとよい。	他の市立学校同様、絶えず、意欲の向上を図りながら積極的、主体的に学校生活を充実させていけるような取組を進めたいと考えています。
■ IV 中高一貫教育校設置の枠組 (135件)		
IV-1 設置形態 (2件)		
93	開成高校は魅力があるため、高校からの入学枠を維持(併設型での設置)すべき。(2件)	開成高校コズモサイエンス科の教育内容は中高一貫教育の特徴を融合させることで、より特色ある教育を実施できると考えています(P7,9~11参照)。生徒全員がこうした特色ある教育を受けることができ、コズモサイエンス科の取組をベースに中高一貫教育の特徴を最大限生かした学校づくりを行うことができるという観点から中等教育学校が望ましいと判断いたしました(P18参照)。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
IV－2 学校規模（5件）		
94	改編対象校の開成高校は人気があるので、定員を増やしてほしい・規模が小さくなるのが残念である。 (3件)	中高一貫教育のメリットを最大限生かすためには、中学校部分と高校部分の一体的な学校運営ができ、生徒全体を把握することができる学校規模とすることが重要と考え、1学年4学級、計24学級の学校規模とさせていただきました。 (P18 参照)
95	1クラス定員を30名程度にしてほしい。	少人数学級については、現在国レベルで議論を行っておりますので、その動向を見ながら対応していく必要があると考えております。但し、特定の教科・科目についてクラスを分割するなどして授業を行う少人数指導については、特に1年・2年段階での実施について前向きに検討したいと考えています (P15 参照)。
96	開校するにせよ、定員を削減するなど、私学への影響を最小限に軽減し、私学が共存できるようにしてもらいたい。	平成19年に市立学校に通学している生徒・保護者を対象に実施した中高一貫教育に関するアンケートでは、保護者の約58%が市立の中高一貫教育校への入学に積極的な回答をしています (P4 参照)。こうしたことから、中高一貫教育に対する潜在的な需要は大きいものと認識しており、市立の中高一貫教育校は、このような需要を新たに掘り起こすものと考えています。
IV－3 通学区域（2件）		
97	学区外入学枠を設けず札幌市内に限定すること。	中高一貫教育校は義務教育である中学校段階からの入学となることから、入学枠については学区外就学枠を設けず、通学区域については、札幌市内とすることを考えています。(P18 参照)
98	すばらしい試みは市区町村単位ではなく、広く募る方がよいのではないかと。通学区域を札幌市内に限定すべきではないのではないかと。	
IV－4 開校時期（2件）		
99	開校時期の理由が教育目的ではない。確かに施設面、子どもの推移から考慮して、という状況はわかるが、学校設置である以上、教育を行ううえでのメリットを考えて明示してもらいたい。 何より、「学級減の影響を緩和するため」という理由は教育環境を整えることに際して適した表現とは思えない。	新たな学校の開校に当たっては、教育課程等の詳細やそれに適した施設設備を検討・整備するため一定の期間が必要となります。加えて、高校入学枠の減少を伴う施策については、高校受験への影響を考慮し、中学校卒業生の減少する時期を選ぶなどの配慮をすることは重要な観点であると考えています。(P19、P21 参照)
100	もっと早く設置したほうがよい。	

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
IV-5 入学者決定方法（69件）		
101	入学者決定方法の詳細を早く教えてほしい。 (18件)	前期課程（中学校段階）の入学者の決定方法について、公立の中高一貫教育校においては法令の定めにより学力検査は実施しないこととなっております（P19 参照）。 また、探究心に富んだ生徒やじっくりと物事に取組むことが向いている生徒などに対して、新たな選択肢として中高一貫教育校の特色ある教育を提供する予定であることを踏まえ、何らかの選考は必要であると考えています。具体的な入学者決定方法については、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意しながら、適性検査、作文、面接、調査書、抽選など複数の方法の中から選択し、適切に組み合わせることで実施することとし、今後、検討を進めていきたいと考えています。 なお、平成23年度からカリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど市民の皆様へ情報提供してまいりたいと考えています（P24 参照）。
102	抽選はやめてほしい（悪平等、落ちたときに納得できないなど）。 (17件)	
103	受験競争の害はあるとは思いますが、小学校の指導要領を超える試験はいけないと思うが、適性検査に加え基礎的学力は見たほうがよいのではないか。 (8件)	
104	入学選抜方法については、学力検査を行わないといっても、適性検査、作文などを課すことは実質的な学力検査となり、一般社会もそのように受け止める。6ヵ年一貫教育を希望する児童が均等に学習機会が得られるよう抽選による選考を基本とすべき。 (2件)	
105	異常な倍率になることを防ぐため（受験競争を起ささない）にも、入学者の選考には抽選を入れるべきである。	
106	入学者決定にあたっては適性検査や作文等で選考すると受験対策につながると思うので、面接や別な選考方法の実施を希望する。	
107	入学者決定に当たっては面接が良い・重視してほしい。 (2件)	
108	適性検査や作文などの点数がつけられないものを誰がどのように選考するのか。 (2件)	
109	入学者決定方法に問題がある・検討の余地がある。 (2件)	
110	入学者決定については、小学校長の推薦枠を設けることがよい。	
111	入学者決定に当たって目的意識の高い子を本当に見分けられるのかといった疑問がある。	
112	入学者決定方法については、体育での検査や知能検査などもするのか。	
113	適性についての基準を明確にして、選考に漏れた理由を理解できるようにしてほしい。	
114	学力検査を行わないのであれば、訓練された子どものみが合格しないよう配慮を希望する。	
115	学力検査を課さない旨賛同。	
116	向いている子どもに来てほしいと言うが、どういう子どもが向いているのか教えてほしい。 (6件)	市立の中高一貫教育校が、開成高校コズモサイエンス科の教育内容と中高一貫教育の特徴を融合させ、課題探究的な学習などを重点的に取組むことを考慮すると、探究心に富んだ子どもやじっくりと物事に取組むことが向いている子どもなどが一例として挙げられるのではないかと考えています。（P9 参照）

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
117	学力検査は行わないが、向いている子どもを選考するという言い方は逃げである。改編対象校は偏差値の高い学校なのだから、それを維持したいのか、それを捨てて新しいことに挑戦するのか明示しても良かったのではないか。	学力検査を行わないことは、受験競争の低年齢化を招かないための具体的な手段として法令で定められたもので、市立の中高一貫教育校でも遵守します (P19 参照)。中高一貫教育校がいわゆる偏差値の高い学校を目指し目標に掲げることはしませんが、中高一貫教育校の特色ある教育を受けた生徒が、結果として、大学を含め様々な進路選択をすることは、他の中学校・高校の場合と同様、問題ないと考えております。
118	学力検査をしないということは、国立大学や学力にこだわる子どもは入ることを希望しないほうがよいのか。	学力検査を行わないことは、受験競争の低年齢化を招かないための具体的な手段として法令で定められたもので、市立の中高一貫教育校でも遵守しますが (P19 参照)、中高一貫教育校の特色ある教育を受けた生徒が、結果として、大学を含め様々な進路選択をすることは、他の中学校・高校の場合と同様、問題ないと考えております。 但し、中高一貫教育の特徴を受験対策のみに活用する、いわゆる受験準備に偏した学校とすることは想定していませんので、このことを踏まえて希望するかどうか判断いただければと思います (P22 参照)。
119	小学校のうちに準備しておくことは何か。	入学決定方法の詳細については今後の検討ですが、小学校段階で通塾等の特別な準備を必要とするかどうか、家庭環境を基準に含めるとするなどの内容は考えていません。
120	親の職業や兄弟の多い少ないは何か関係があるのか。	
IV-6 中高一貫教育校設置に伴う移行期間 (10件)		
121	初年度の子どもたちに中2、中3の先輩がいない点が学校生活や部活動の面で心配であり、対応を検討してほしい。(6件)	地域の中学校に通っている生徒を、その途中の段階から中高一貫教育校に編入学させることは教育上好ましくないと考えており、開校時に2・3年生を募集することは考えていません。全学年の生徒が揃うまでの間の移行期間における対応については他都市の先進事例等を参考に検討します (P20 参照)。
122	開校時に中学2・3年生を募集する考えは無いのか。	
123	移行期間の間の高校段階の入学試験はどうなるのか。(3件)	移行期間における高校段階(後期課程)の入学決定方法については今後検討することになりますが、現時点では高校の入学選抜に準じて行うことを考えています。
IV-7 その他 (45件)		
◆ 制服について (14件)		
124	現在、開成高校は私服だが、中高一貫教育校になった後は制服になるのか。(2件)	いわゆる制服については、最終的には中高一貫教育校が判断することになりますが、開成高校の伝統や生徒指導の面、費用の面など様々な観点から検討していくことになると考えています。
125	制服はあった方がよい。(8件)	
126	私服がよい。(2件)	
127	「自由の中に規律を持つ」という開成高校の校風を継承するために、「自由服」も継承してほしい。	
128	中学校段階だけ制服にしてはどうか。	

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
◆ 通学関係について（12件）		
129	地下鉄元町駅から約1km程度あり、スクールバスを検討してほしい。（7件）	札幌市では、中学生の通学距離については、概ね3km以内としており、この距離を徒歩通学する生徒もいることから、地下鉄元町駅から中高一貫教育校までの約1.2kmの徒歩通学は可能であると考えています。したがって、スクールバスの運行は考えておりません。なお、実際には自宅から中高一貫教育校まで通学可能かどうか問題となりますが、これについては個々の事情により様々であると思われます。通学区域については、中高一貫教育を望む市内の児童に対して公平に入学の機会を提供するため札幌市内としています。入学を希望する際には、実際に通学可能かどうかも含めて判断していただくことになると思います。
130	冬季の通学サポートを検討してほしい。	
131	駅から歩いて15分は小学校卒業したばかりの子どもには遠いのではないか。	
132	遠方からも通学しやすいようにしてほしい。（2件）	
133	自転車通学を可能にしてほしい。	現在、開成高校では自転車通学を認めておりますが、市立中学校では自転車通学を認めておりません。札幌市内を通学区域とする中高一貫教育校でどのようにするかについて、生徒の安全性の観点などから今後検討いたします。
◆ 給食について（5件）		
134	給食はあるのか。（4件）	札幌市においては、学校給食法に基づき学校教育の一環として、全小中学校で給食を実施しておりますので、札幌市が設置する中等教育学校の前期課程においても給食を実施することを考えています（P21参照）。なお、後期課程では、給食の実施を考えておりません。
135	給食はあった方がよい。	
◆ 費用負担について（8件）		
136	中高一貫の中で特色ある授業や活動が多く、英語学習についても海外見学旅行などの説明もあったので、教育経費がどの程度かかるのか教えてほしい。（6件）	公立学校である以上、他の公立中学校、高校と比べ負担が大きく増加することのないよう配慮する必要があると考えています。平成23年度からカリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど市民の皆様へ情報提供してまいりたいと考えています（P24参照）。
137	あまり金銭的な負担の出ないように何でもかんでも購入するようにはしないでほしい。（2件）	
◆ 学科について（3件）		
138	学科はどうなるのか・いつ決まるのか。（2件）	学科については、コズモサイエンス科のこれまでの取組をベースに具体的な教育課程のあり方を検討する中で判断したいと考えています。但し、複数の学科を置くことは考えていません。また、前期課程（中学校段階）には学科という考え方はありません。
139	中学校段階から学科を選ぶことになるのか。	
◆ その他（3件）		
140	男女共学を希望する。	他の札幌市立学校同様男女共学となります。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
141	始業時間を少し遅らせてほしい。	詳細については今後検討していきます。
142	制服やユニフォーム等を6年間通してほしい経費節減、省エネ、脱原発のために必要。	
■ V 中高一貫教育校の施設整備の考え方（2件）		
143	過去にとらわれず、ユニークで近代的な施設整備を望む。	中高一貫教育の教育内容を効果的に発揮できる施設整備を目指します。（P21 参照）
144	開成高校は部活動にも伝統があるのでグラウンド等の充実を願う。	部活動にも配慮した校舎や体育施設の配置などを検討していきます。
■ VI 課題・留意点への対応等（35件）		
VI-1 課題・留意点への対応（18件）		
◆ 受験競争の低年齢化（3件）		
145	私立に加え市立中高一貫校が加わることで、受験競争の低年齢化が加速し、小学校教育やそれを取り巻く塾など民間教育機関も含めて、小学生への教育内容や方法に大きなゆがみや影響が出る危険性がある。（2件）	開成高校を改編対象校に選定したのは、中高一貫教育の特徴を生かすことで、現在取り組んでいるコズモサイエンス科の特色ある教育内容を更に発展・充実させることができると判断したことにあります（P7 参照）。
146	偏差値の高い学校を改編対象校に選んだ時点で受験競争の低年齢化は避けられないのではないかと。	また、前期課程（中学校段階）の入学者の決定方法については、法令で学力検査は行わないこととなっており、具体的な手法について、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意して、今後検討を進めていきます（P22 参照）。
◆ 受験準備に偏した教育（2件）		
147	良い大学への進学を目指すものではないという方向にも賛成。成果が上がらなかった場合、周囲から色々注文が出てくるかもしれないが、迎合すること無く貫いてほしい。	国会の付帯決議にもあるとおり、いわゆる受験準備に偏した教育を行うことは想定していません。（P22 参照）
148	高校卒業後の進学についてどのように考えているのか説明がほしい。	6年間を見通した進路探究学習により自らの将来や生き方を主体的に考え、自らの将来を切り拓く力を育てることが重要であると考えます（P12 参照）。こうした学習の成果から生じる進路希望の実現は非常に大切なことと考えており、個々の生徒の希望が実現できるよう学校として最大限支援していくことが必要であると考えます。
◆ 生徒集団の固定化への対応と進路変更の保障（5件）		
149	中学校修了後、他校への転校は可能なのか。	6年間を通して同じ学校で学ぶ中等教育学校に入学することになりますので、卒業までの6年間を過ごすことが基本となります。但し、学校になじめない等のやむを得ない事情がある場合には、地域の中学校に転校したり他の高校へ進学したりすることを保障することを考えています（P22 参照）。 具体的な対応につきましては、今後詳細を検討したいと考えています。
150	入学後学力面も含め合わない生徒が出てきた場合にどうするのか心配なので、一応中3のときに進路指導をしてほしいと思う。	

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
151	欠員補充が無ければ、多量に転校した時に学生が少なくなるのではないか。	転編入学等につきましては、既存の中学校・高等学校の考え方を踏まえ、今後詳細を検討して参ります。
152	他校への進学とともに他からの編入等を認めるべき。	
153	転勤族の児童にチャンスはあるのか	
◆ 心身発達の大きい生徒への対応（2件）		
154	子どもの発達に対し医療等専門家によるケアを受けることも必要ではないのか。	現在、札幌市では小中高において、臨床心理士の資格を持ったスクールカウンセラーの配置を進めており、中高一貫教育校においても、スクールカウンセラーの配置も含めて相談体制を整備することを考えています。
155	心身発達の差異の大きい生徒への対応についての取組などへの準備等は必要だと思うが、施設整備というのは、無駄な気がする。極力必要なものにお金を配分してもらいたい。	心身発達の差異の大きい生徒への対応については、中高の区別なく教員が一体的に生徒を見守り育てることが重要と考えております。そういった観点から校舎建設に当たっては、職員室を一体的に整備する等のレイアウト上の工夫を行うことを考えており、特別に経費をかけることは想定していません。(P23 参照)
◆ 中だるみへの対応（3件）		
156	中だるみへの対応を教えてください。 (2件)	市立の中高一貫教育校では、高校入試がないことのメリットを生かして、3・4年を「充実期」と位置付け、最も特色を打ち出すことのできる重要な時期と考えております (P15 参照)。詳細については、今後の具体的なカリキュラムの検討の中で整理していきたいと考えています。 なお、平成 23 年度からカリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど市民の皆様へ情報提供してまいりたいと考えています (P24 参照)。
157	高校入試が無い中だるみの時期は特に充実した学校生活のカリキュラムを作してほしい。	
◆ その他（3件）		
158	中高一貫教育のメリット・デメリットを具体的に教えてください。 (3件)	中高一貫教育には「6年間を通した学びの連続性」「幅広い異年齢集団による学びあい」「6年間にわたる見守り」などの特徴があり、こうした特徴を生かすことでこれまで以上に特色を持った教育環境を提供することが可能であると考えています (P3、9～14 参照)。但し、こうしたメリットとともに指摘されているいわゆる中だるみなどの懸念事項について適切な対応が取られない場合、こうした懸念事項はデメリットになると考えます。このことから、教育委員会としては課題・留意点に対する適切な対応が重要であると認識しております (P22～23 参照)。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
VI-2 評価と検証（17件）		
159	開成以外にも設置する予定はあるのか・設置してほしい。（15件）	中高一貫教育校の設置は札幌市として初めての取組ですので、中高一貫教育校の設置後、教育効果や札幌市の教育全体への影響などの評価・検証を行うとともに、市立高校改革全体の検証と併せて、更なる発展を目指すためにどのような取組を進めていくべきか検討していきたいと思っております。（P24 参照）
160	一校のみでのデータではなく複数校設置による成果を見るということは予算上無理なのか。	
161	今回の中高一貫教育校は良くも悪くもモデルケースとなると思うので、どのタイミングでどのような場でどのような評価・検証を行うのか、その結果をどのように札幌市の教育に生かしていくのか今後具体的に示してほしい。	評価・検証については、既存の学校でも行っている学校評価や現在進めている市立高校教育改革の評価・検証と併せて総合的に進められるよう検討してまいりたいと考えております。
■ VII その他（67件）		
VII-1 説明会等について（46件）		
162	わかりやすい説明で非常によかった。説明会でイメージが沸いた。 など（20件）	今回の基本構想案については、平成27年度開校の構想であり、特に教育内容等については、具体例というよりもイメージをお伝えする形になっており、ご期待に添えていない部分もあると認識しております。 平成23年度からカリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど市民の皆様へ情報提供してまいりたいと考えています（P24 参照）。
163	説明も質疑も曖昧な部分が多く、満足できる説明会ではなかった。（3件）	
164	検討内容が整理された段階で再度説明会を開くなど情報提供してほしい。（16件）	
165	具体的な構想はいつ決まるのか。決まり次第公表を希望する。	
166	意見の募集期間が2月28日までなのに、説明会の開催日が20日というのはあまり良くない。せめて募集期間の前半にすべきである。	
167	質疑応答を打ち切っていたが、まだ質問もあったのだから、あと10分程度続けても良かったのではないかと。予定よりも時間が過ぎたのであれば、希望者を退席させても良かったのではないかと。	
168	開校前には子どもたち向けの説明会も開いてほしい。（2件）	
169	現在の中学校・高校がどういう授業内容なのかということと比較して中高一貫教育校について説明してほしい。	今後開催する説明会の中でご意見を参考に説明内容を検討していきたいと考えています。
170	是非、次回説明会も参加したいので、開催される際には葉書などで個人的に知らせていただけるとありがたい。	今回の意見募集でいただいた個人情報をおの目的に使用することは認められておりませんが、個別のご案内ではなく、学校を通してのお知らせのほか、広報さっぽろやホームページの活用などを図り、広く市民の皆様へ周知させていただきたいと考えています。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
Ⅶ－２ その他（２１件）		
171	入試日程などは、私学関係団体と十分協議すべき。 (２件)	入試日程については、私学関係団体と話し合いを行うなど、関係機関と調整のうえ、決定することを考えています。(P19 参照)
172	早めに開成中等教育学校担当教員を採用してよくカリキュラムを練ってから教育を開始してほしい。	今後、開校準備室を設置するなどして、カリキュラム等についても十分準備を行ったうえで開校することを考えています。
173	開校してから落ち着くまでの間の人事異動は凍結してほしい。	教職員の人事異動等についても、今後検討していきたいと考えています。
174	教員の採用方法、人事異動のタイミング等を明らかにしてほしい。 (２件)	
175	基本構想の実施する機会に教員のレベルアップが不可欠であり、優秀な教員の創造を前提に進めてほしい。 (２件)	中高一貫教育校では、中学校出身教員と高校出身教員が日常的に協力しながら教材研究や学習指導を行なうことで中高の連続性を意識した実践研究が進むなどの効果が期待されます。その成果を教員研修などにも活かしていきたいと考えています。(P16 参照)
176	教職員の側の改革（ex 中高一貫に対応した体制、資格の整備）は考えているか。	中学校でも高校でもない６年間一貫した教育を提供する新たな学校を創造するために、中学校出身教員と高校出身教員の区別なく、相互に授業を持つことも含め、一体的な学校運営を行うことを考えています。(P17 参照)
177	狭い領域や特定分野で秀でた能力を発揮する発達障がいのある子どもにも門戸を開いてほしい。 (２件)	特別に発達障がいのある児童のための入学枠を設けることは考えていませんが、入学してきた生徒が、何らかの困難を抱える場合については、スクールカウンセラー等の専門家と協力しながら、個性を活かし、伸ばしていける学びの場となるよう努めていきたいと考えています。
178	札幌市の児童生徒の学力その他をもっと向上させるようがんばってほしい。 (２件)	学力の向上を図るためには、児童生徒の学力や学習状況を把握し、個に応じたきめ細かな指導を図ることが重要であると考えております。教育委員会では、これまでも、各学校において指導方法等の工夫改善が図られるよう手引を作成し、全教員に配布するとともに、各種調査を実施し、課題の把握とその改善策を示してきたところです。また、学習習慣の確立や学習意欲の向上、指導方法の工夫改善などについて研究も進めており、今後とも、その成果の普及・啓発を図りながら児童生徒一人一人の学力の向上に努めてまいりたいと考えております。
179	公立中学校全体も選択性にしてもよいのではないか。	子どもや保護者の希望を活かす、通学区域制度の弾力化や学校選択制度について、先行自治体の実態調査を含め、その教育効果や課題について、調査、研究を進めています。

NO	ご意見の概要	札幌市の考え方
180	市立高校で行われている進路指導について明らかにしてほしい。	「札幌市立高等学校教育改革推進計画」に基づいて、市立高校では共通の取組として、生徒の学習意欲を高め、より主体的に学ぶ力を育てるため、自分自身を発見し将来の生き方や進路について考えさせるため進路探究学習を推進しております。 具体的には、各校の1年生が一堂に会して社会の一線で活躍する方の講演等を聞く進路探究セミナーや職場体験、高大連携の取組などを行っています。
181	他校（旭丘高校 etc.）の発展も期待する。	現在、市立高校8校はそれぞれ魅力ある学校の実現に向けた取組を進めており、更なる充実・発展を目指しております。今後ともご支援とご協力をよろしく申し上げます。
182	コズモサイエンス科は新川高校など他の高校で是非継続してほしい。	コズモサイエンス科のコンセプトについては、中高一貫教育校の中で生かしていくことを考えており、現時点では他の市立高校に開設することについては考えていません。
183	選考に漏れた場合は近隣の中学に入学か。	前期課程は義務教育ですので、中高一貫教育校に入学できなかった場合にも、地域の中学校で学ぶことは保障されています。
184	説明会のプレゼンファイルを HP にアップロードしてほしい。	個人の肖像等を含む内容となっていますので、ホームページ等で公開することは控えさせていただきます。
185	中高一貫教育には意義があり期待していますが、今後の学校教育への苦言として、生徒の個性重視の名の下に、親のニーズに応える形で徒に選択肢をつくるべきではない。 安易な選択を招き、それゆえの不幸につながることを忘れないでほしい。	ご意見も踏まえながら、今後の取組を検討してまいります。
186	説明会で出た質問はいずれも今後の検討に役立つ視点だと思うので、十分検討してほしい。	説明会でのご質問やパブリックコメントのご意見などを参考にしながら、今後、詳細な検討を進めていきたいと考えています。

札幌市中高一貫教育校設置基本構想（案）
に対するご意見の概要と札幌市の考え方

平成23年（2011年）4月発行



さっぽろ市
01-A01-10-1555
22-1-116

編集・発行 札幌市教育委員会学校教育部教育推進課企画担当
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV 北2条ビル
電話 (011) 211-3838 FAX (011) 211-3852
